

受 付	個 人 質 問 令和 年 月 日	第 時 号 分
--------	---------------------	------------

一 般 質 問 < 個 人 > 発 言 通 告 書

令和7年11月14日

長久手市議会議長 殿

長久手市議会議員 ささせ順子

会議規則第59条第2項の規定により下記のとおり通告します。

	質 問 事 項 及 び 要 旨	備 考
1	<p>市民の安心を支える道路整備の推進について</p> <p>本市では、2005年の愛・地球博に伴う名古屋瀬戸道路長久手インターチェンジの開通をはじめ、2022年のジブリパーク開園に合わせた前熊東交差点の改良工事など、主要道路の整備が着実に進められてきた。</p> <p>令和8年度には、瀬戸大府東海線の長湫中池交差点から大草交差点までの区間が開通する予定であり、南北交通のさらなる円滑化が期待されている。</p> <p>市は、限られた財源の中でも計画的な道路の維持管理に努めており、その取り組みには多くの工夫と努力が重ねられている。</p> <p>一方で、生活に密着した狭あい道路では、通学児童の安全確保や緊急車両の通行確保などに課題が見られる。</p> <p>こうした生活道路の改善は、防災・交通・衛生の観点からも喫緊の課題である。狭あい道路の整備を着実に進めるためには、市の基本方針を明確にし、財源確保と地域の合意形成を円滑に進めるための仕組みづくりが必要であると考え、以下を伺う。</p> <p>(1) 暮らしを支える生活道路の改善について</p> <p>ア 狭あい道路の解消に対する市の基本的な考え方を伺う。</p> <p>イ 安全な通行環境を実現するうえで、市が解消すべきと考える狭あい道路はどれくらいあるか。</p>	

	<p>ウ 狭あい道路の解消を進めるうえで、地域の理解促進や財源確保など、認識している課題はどのようなか。</p> <p>(2) 瀬戸大府東海線の開通により、本市の交通利便性が高まる一方で、市道の交通量増加も見込まれる。持続可能な道路維持管理体制のあり方について、市の考えを伺う。</p>	
2	<p>見送りの安心を支える火葬体制について</p> <p>本市は火葬場を持たず、近隣自治体の火葬施設に依存している状況にある。</p> <p>国の人口動態統計によると、年間死亡者数は今後も増加を続け、令和22年には約167万人でピークを迎えると推計されている。全国的に「多死社会」を迎える中、これまで大都市に限られていた“火葬待ち”の問題が、地方都市でも深刻化しつつある。</p> <p>本市でも、最も多く利用されている名古屋市八事斎場が令和7年4月から令和10年5月まで建替え工事中であり、火葬までの待機期間が延びた事例が確認されている。</p> <p>さらに、豊田市とみよし市が共同運営する古瀬間聖苑では、豊田市が令和15年度末までに事務委託を解消する方針を示すなど、近隣火葬場の受入体制も変動期を迎えている。</p> <p>人生の最期を穏やかに、そして尊厳をもって見送ることは、すべての人にとって共通の願いである。</p> <p>誰もが安心して大切な人を見送れる環境を守るため、火葬体制の今後の在り方について以下を伺う。</p> <p>(1) 本市の死亡者数の推移を踏まえ、今後どのように火葬需要が変化すると見込んでいるか。</p> <p>(2) 市民が安心して大切な人を見送れる環境を確保するため、市単独で火葬施設を整備する考えはあるか。</p> <p>(3) 近隣自治体との広域連携による火葬体制の確保について、市の考えや今後の方向性を伺う。</p>	